

令和 8 年度町政懇談会事前質問（小島自治会）

	意見・要望・質問	担当課	回 答
1	昨年 1 年間に深海行政区においては、4 名の方が逝去され、一人暮らしの生活を余儀なくされている高齢者の方が増えてきております。昨今の地震災害や異常気象に伴う大雨災害などが各地で発生している状況下において、今後ますます高齢化の進展を考慮した場合、住民の方々の安全・安心の確保が必要となってまいります。深海行政区においては、「有事の際の連絡網」を作成して備えておりますが、それらの目的を達成するため、日常生活における見守り隊的な取り組み（OA を活用した電気の使用状況の監視、通常の生活の継続状況など）を検討していただきたい。	総務 保健福祉	高齢者等の要配慮者が速やかに避難できるよう大雨被害が予想される場合には、早めに避難所を開設するなど住民の方々の安全・安心の確保に努めてまいります。 また、町では、高齢者や要介護者、障がい者等の避難行動要支援者を対象に「わたしの避難計画（個別避難計画）」を作成し、平時より自治会、消防団、民生委員等の関係団体の皆様と情報を共有しておくことにより災害発生時の避難誘導などの支援体制の強化を進めており、今後も支援体制の強化を進めてまいります。
2	米作農家の高齢化と後継者不足による休耕田が増加してきている状況にあり、ますます休耕田が増加し、荒れ地となっていくことが予想されます。この対策の一環として、零細農家の共同作業を行政指導や JA 指導により組織化などによる米作りの継続・推進や、米作りが不可能であれば米以外の作物への転換などで成功している事例の視察研修など、町がリーダーシップをとって進めていくよう検討してほしい。	農林振興	現在、高齢化や後継者不足対策として、町では新規就農につながる取り組みを推進しております。具体的には、随時新規就農者の相談受付を行っているほか、休耕地が増えないよう、農地を適切に管理いただくための農地中間管理事業の活用を呼び掛けており、年々農地貸し借りの件数が増加傾向にあります。 また、共同作業につきましては、地域計画に基づき JA とよく協議し検討してまいります。

3	今年の3月で福島交通のバスが廃止になり、その代わりにデマンドタクシーによる代替輸送に変換されました。これまで気軽にバス輸送を利用していた高齢者や学生にとっては、デマンドタクシーの活用方法がまだまだ不慣れな状況にあるのではないかと考えられます。 小島地区の場合、川俣経由で福島へ行く方法と月舘経由で福島へ行く方法がありますが、いずれの場合もどのようにデマンドタクシーを活用すればよいのか、活用方法と料金についてわかりやすい資料を広報誌などで紹介していただきたい。	政策推進	小島地区を通り、月舘を経由して福島駅東口へと向かう福島交通の「月舘経由川俣線」は、利用人数の減少により令和8年3月で廃止となりました。 デマンドタクシーは、自宅からまちなか指定乗降所までを結ぶ運行となっておりますので、その性質上月舘経由で福島へ向かうことに活用することは、難しいと考えております。 例えば地区からオリナスかわまたや道の駅かわまたなど、福島行きのバス停近くの指定乗降所までデマンドタクシーをご利用いただき、乗り継ぎしていただくことが想定されます。 活用方法の周知につきましては、より広くデマンドタクシーを利用されたことのない住民の皆様へ効果的に周知が図れるよう、引き続き検討してまいります。
4	昨今、野生動物による農作物（ネギ、サツマイモ、カボチャ、あんぽ柿など）の被害が増加してきている状況にあります。これまで、特に猪につきましては、ワイヤーメッシュの設置などで対応策がとられており、100%とはいえないまでもひと段落の状況にあります。 最近特に深刻化してきているのが、サルによる農作物の被害が増加してきております。サルの場合は猪のようなワイヤーメッシュでは防御効果が全くありません。花火による脅しもその時だけで効果がなく、非常に困っております。 今後のことを考慮すると捕獲しかないのかなと思われそうですが、対応策をお願いいたします。	農林振興	ニホンザル対策として町では3つの対策を実施しております。 対策の1つ目は、ワイヤーメッシュ柵及び電気柵の購入に係る費用補助、2つ目は、追い払い用花火の配布、そして3つ目はニホンザルの捕獲です。 捕獲については専門の民間業者に委託し、小島地区、伊達市、飯舘村をまたぐサルの群れに対して、伊達市でGPSをサルに装着いたしました。今後は、伊達市と情報を共有し、群れの分析をしたうえで、捕獲等の対策を実施していきます。